

第6学年 道徳学習指導案

日時：平成29年7月7日（金）

場所：6年教室（3階）

授業者：花井 眞

児童数：30名

3 本時のねらい

自分の思いや考えを、場に応じた態度で適切に伝えることが大切であることに気付き、相手の気持ちを理解し、互いに信頼し合い、友情を深めていこうとする心情を育てる。

4 本時の展開

※ICT活用について

1 資料名：「知らない間の出来事」

（出典：私たちの道徳6年 文部科学省）
友情・信頼 B-（10）

2 指導の立場

（1）児童の実態

通信型ゲーム機で遊ぶ児童や携帯電話のラインアプリをもつ児童が多い。学校内では、ゲームやラインアプリについての会話をしている児童が多い。児童は、自分とは違う趣味をもついろいろな仲間と友だち関係を作ることが苦手なようである。男女の仲はよいが、数名の児童が孤立している。今後、一人一人が互いのよさを認め合い、学級の仲間全員で学校行事をすすめる、仲間のすばらしい頑張りを互いに褒めて称えあいながら、友情を築いていける心情を育てる。

（2）本時の指導について

【年間指導計画の工夫】

学校で使用するタブレットパソコンの利用について、その約束を児童が自らの話合いの中でつくる。また、著作権や個人情報などに関わる情報モラルについては、動画資料などを活用し、日常生活で必要とされる知識を獲得させる。また、ネットモラル検定などのワークシートを活用して、児童のネットモラルの知識の定着を図る。授業後には、友情に関わるワークシートを使い、ソーシャルスキルトレーニングを行い、望ましいスキルを身に付けさせる。

【指導方法・指導形態の工夫】

主人公の気持ちに共感した箇所が全体交流で確認できるように場面絵を黒板に提示する。主人公の気持ちに迫るためにペアでの役割演技を取り入れ、自分や仲間の考えを伝え合うことができるようにする。

【学習環境の工夫】

導入時に本時に関わる写真やイラストを大型テレビで提示し、登場人物の心情をつかみやすくする。

	過程の目標	主な学習活動	指導・援助
つかむ	○本時のねらいとする価値が分かる。	1 友だちっていいなとおもったときはどんなときがあるか。 ・困っているときに、助けてくれた。 ・一緒に遊ぼうと声をかけられた。	※大型テレビにグランドで遊んでいる様子の写真を提示して、身近にいる友だちのことを考えやすくする。
ふかめる	○「あゆみの回想」を読む。 ○「みかの回想」を読んで「みか」の心情を考える。 ○自己を振り返るみかの心情に共感する。	2 「あゆみの回想」の資料の範読を聞く。 3 「みかの回想」の資料の範読を聞き、みかの気持ちが分かるところに赤線を引き、その理由について交流する。 4 みかの気持ちを考える。 ○「みかの頭の中は、あゆみさんのことでいっぱいになった。」どんなことを考えていたのだろう。 ・いつの間にか、こんなことになっているなんて。どうしよう。 ・私のせいだわ。あゆみさん、ごめんなさい。 ・メールなんかするんじゃないかって。 ・携帯電話がないから友だちいないなんて。 ◎「みか」は電話であゆみにどんな会話をしたのだろう。 ・「本当は友だちになりたいと思っていたの。こんなことになるなんて、ごめんなさい。ゆるしてくれますか。これからは、友だちとして一緒に漫画を書いて楽しく遊びたいけどいいかな。」 ・「携帯電話をもっていないだけで、あゆみさんには友だちが少ないと決めつけてごめんね。あゆみさんにもみんなにも謝りたい。ゆるしてくれますか。いいですか。」	※「あゆみ」と「みか」の心情を整理するために、黒板に場面絵を提示する。 ※メール配信の文面の様子を大型テレビで提示することで、主人公「みか」の気持ちについて共感させる。 ・ワークシートに「みか」の気持ちを書かせる。机間指導で◎で朱書きし、児童の考えを価値付ける。 (深めの発問) ○「みか」が小さく丸めて、ポケットに入れていた電話番号の紙をきれいにもどしたのはなぜか。 ・小さな紙を開く動作を交えて考えさせる。 ・みか役とあゆみ役のペアで役割演技をさせ、みかの気持ちを考えさせる。 ・教師の意図的指名で、役割演技をさせ、全体交流で「みか」役や「あゆみ」役の発言でよかった内容やその理由について話させる。
まとめる	○互いに信頼し合い、友情を深めていこうとする。	5 教師の説話を聞く。 ・自分の思いを誠実に伝えることで、これまで以上に信頼関係が深まったことを話す。	※学級の中で楽しく友だちと遊んでいる様子や委員会活動や係活動で自然と助け合っている様子を大型テレビで紹介する。